

## 大学のセミパブリック空間を活用した学生主体のエリアマネジメント

—MU STREET PARK

久我 匠・花積 優喜 明治大学政治経済学部

倉持 太介 一橋大学国際・公共政策大学院

### 1. 大学の公共的な空地の活用

MU STREET PARK プロジェクトは、「日本有数の音楽街・御茶ノ水において“自由”を標榜する明治大学の学生が企画・実施主体となり、音楽を通じた大学・地域の一体性の形成・深化」を目的に、駿河台キャンパスのアカデミーコモン前にある広場を活用したエリアマネジメント活動である。具体的には、2022年秋に、①ストリートピアノ設置②カフェスタンドによるコーヒー提供③人工芝や机・椅子の整備を行った。

これまでエリアマネジメントと言えば、開発事業者等を中心に公開空地や公道等で進められてきたが、当プロジェクトでは、大学と学生が中心となり、都市型キャンパスが保有するセミパブリック空間に滞留性を生み出すことで、御茶ノ水という地域全体の魅力向上を目指したものである。

なお、このプロジェクトは、明治大学学生部が主催する、多様性や持続可能な社会に資する学生提案型プログラム「M-Naviプロジェクト」として2022年度に採択され、50万円の助成を受け実行したものであり、2023年度も引き続き実施予定となっている。

### 2. 学生が主体となったエリアマネジメント活動

学生が主体になる利点は、学生の「個性」を活かしたコンテンツの持続的な提供が可能である点である。

具体的には、①ピアノサークルによる演奏会、②学生ソムリエによるコーヒーの提供、③本棚やボードゲームの設置等を行うことが出来た。

また、明治大学生やサラリーマンの昼食場所としての利用が主であった広場に、近隣病院への通院患者や近隣の大学生や家族連れなど、これまでは見られなかった層が集まるといった変化が見られた。コロナ禍によって人と人との交流が失われた街や大学キャンパスにおいて、来場したストリートピアノ/Youtuberと学生の連弾や、夫婦による民族楽器とピアノセッ

ションなど、「学生×地域住民」や「演奏者同士」、「他学部の学生同士」といった属性を越えたコミュニケーションや繋がりが音楽を起点として生まれていったことは特筆すべき点である。

キャンパス来場者からは、「昼食場所として利用していたが、ピアノの音が街に流れることで来るのが楽しみになった」「近隣病院での手術を控え、不安だった心がストリートピアノで軽くなった」「ストリートピアノを通じて子供に芸術に触れる機会があるのは良い」等の声をいただくことができ、キャンパスを使用する学生に留まらず、地域住民や通勤者の憩いの場となった。

### 3. 課題と今後求められる方向性

現時点では、明治大学政治経済学部都市政策ゼミの学生が中心の体制だが、今後は、様々な専門を学ぶ学部学科の学生や多種多様なサークルなど大学というリソースを十分に活用しながら、より多角的な視点でプロジェクトの深化を図っていけるかが課題と考えている。加えて、御茶ノ水という地域には、日本大学、中央大学といった大学や、古書店街・楽器店街といった個性ある店舗、昔ながらの住民等のコミュニティやまちづくり組織、神田小川町三丁目西部南地区第一種市街地再開発組合をはじめとした様々なアクターが存在する。こうしたアクターが行っている活動・プロジェクトとの連携や周辺地区の活用されていない空地の活用等への展開も検討していく必要があると考えている。

私たちは、これからも地域・大学・学生にとって魅力あるエリア全体でのムーブメントを創っていきたい。



MU STREET PARK 開催により賑わいが生まれた広場空間

ピアノや椅子・机を利用する来場者の様子